

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を意識した授業改善
羽生市教育委員会・羽生市立羽生東小学校・羽生市立羽生南小学校

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

羽生市立羽生東小学校の実践

○学年 第6学年

○教科名 算数

○单元名 円の面積

○身に付けさせたい力

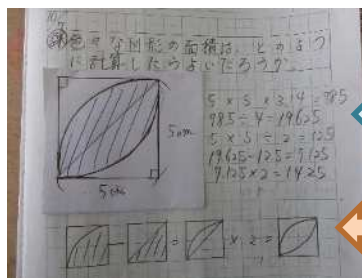
- ・円の面積について、求め方や計算で求められることを理解し、円の面積を求める公式を用いて面積を求めることができる。(知識及び技能)
- ・円などの面積の求め方を図や式を用いて考えて、説明することができる。(思考力、判断力、表現力等)

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実へ向けた工夫

- ①多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考える際に、図や式などを自分で選択して説明できるようにする。
- ②子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、類似問題や応用問題など自分に合った課題に取り組めるように多様な資料を用意する。

○成果と課題

- ① 図形の全体図から部分的に図形を分けて考えていた。
まず式を立て、説明を分かりやすくするために図を用いていた。



立式

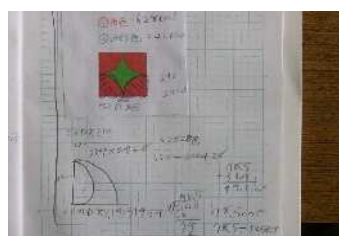
図

- ②類似問題と応用問題として、円を含む複合図形の面積の求める資料を5種類用意した。
自分のレベルに合わせて、問題を選択し取り組んでいた。

課題と類似：数値が異なる

応用問題
円の面積

応用問題
複合図



〈課題〉

- ・低位層の児童を中心に机間指導を行う必要がある。
- ・ICT を活用して、児童の考えを全体に共有した後、紹介した児童の考えの映像を画面上に残しておくことができない。(ICT の活用方法の習得が必要)
- ・立式の根拠を問われるとうまく説明できない児童も多い。穴埋め式の短文を作ることでの説明の練習することも有効である。

(課題)

- ・資料の選択と準備に時間を費やす。応用問題などの資料集などがあると便利。
- ・課題だけでも理解できていない児童をどう拾うか。
- ・個々の学習の理解度に合わせてグループを分けるのも有効ではないかと考える。

事例2

羽生市立羽生南小学校の実践

○学年 第2学年

○教科名 生活科

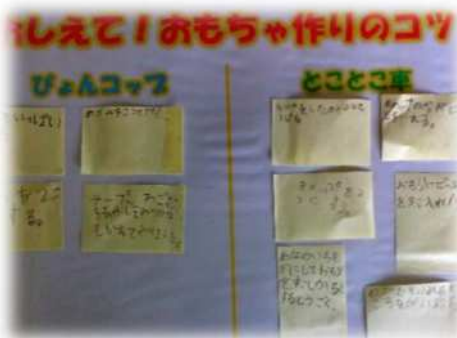
○单元名 「うごくうごくわたしのおもちゃ」

○身に付けさせたい力

みんなで楽しみながら遊びをつくり出そうとしたり、自分の生活に生かそうとしたりする力

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実へ向けた工夫

- おもちゃを一人一人が制作する際に、「教科書に載っている作り方を見ながら作る」「図書室の本を見ながら作る」「教師が手本として作成した動画を見ながら作る」を選択させた。
- 制作したおもちゃの動きを毎時間タブレットで撮影し、材料や作り方を変えることによる動きの変化に気付けるようにした。
- 同じおもちゃを作った児童でグループになり、動きが良かったところやうまくいかないところを意見交流し、試行錯誤を繰り返した。
- グループ活動でもうまくいかないときには、学級全体に課題を投げかけ、アドバイスをし合う活動を行った。
- おもちゃ作りのコツやうまくいくポイントをカードに記録し、教室内に掲示した。



- 輪ゴムの数を増やしたら、よく飛んだよ。
- 太いゴムにしたら、速く走ったよ。
- おもりの重さを変えたら、よく回るようになったよ。

○成果と課題

【成果】

- 作り方を選択させたことで、それぞれのペースで自由におもちゃ作りができた。早く終わった児童は、工夫する時間を十分に確保できた。
- グループで交流を行ったり、おもちゃ作りのコツを掲示したりすることにより、一人一人のおもちゃの動きが良かった。友達の意見を参考に、進んで工夫をする児童が多く見られた。

【課題】

- タブレットの不具合で活動できない児童がいることがある。通信環境を整えることが必要である。
- 今後はグループ活動に学習支援アプリも有効に活用していきたい。